

舞先輩の  
アナルレックス

R18  
For Adult Only

mon-petit



ホントにあなたの言う通りにしたらチームの解散は取り消してくれるのね？

ああ勿論保障しよう



わかったわあなたの条件を飲むわ

賢明な判断だ



君が少し我慢すればみんなとは今まで通り仲良くやれて生活費も稼げる迷う必要があるかね？



だがここ最近不祥事が多い君達を庇うんだそれ相応の態度を見せて貰わないとだがね



それじゃ早速その邪魔な物を下ろして君の肛門を見せて貰おうか

はい...

ほら、ちゃんと  
見えるように  
自分の手で  
広げるんだ

おやおや  
恥ずかしいからか  
アナルがヒクヒクと  
開いたり閉じたり  
してるな

ムワッ...

そのたびに  
なんとも芳しい  
舞くんの臭いが  
広がってるぞ

ハア  
ハア

わ、わかったわよ  
こ、これでいい...?

プル  
プル

カアア

ツツ

それじゃさっきの  
約束をもう一度  
復唱して貰おうか

う、うん...

ムワッ

フワッ

わ、私川上舞は  
チーム解散を  
取り消して貰う  
代わりに一週間  
私のこ、肛門を

アナルだアナル

ア、アナル使って  
楽しんで  
いただく事を  
誓います

プル  
プル

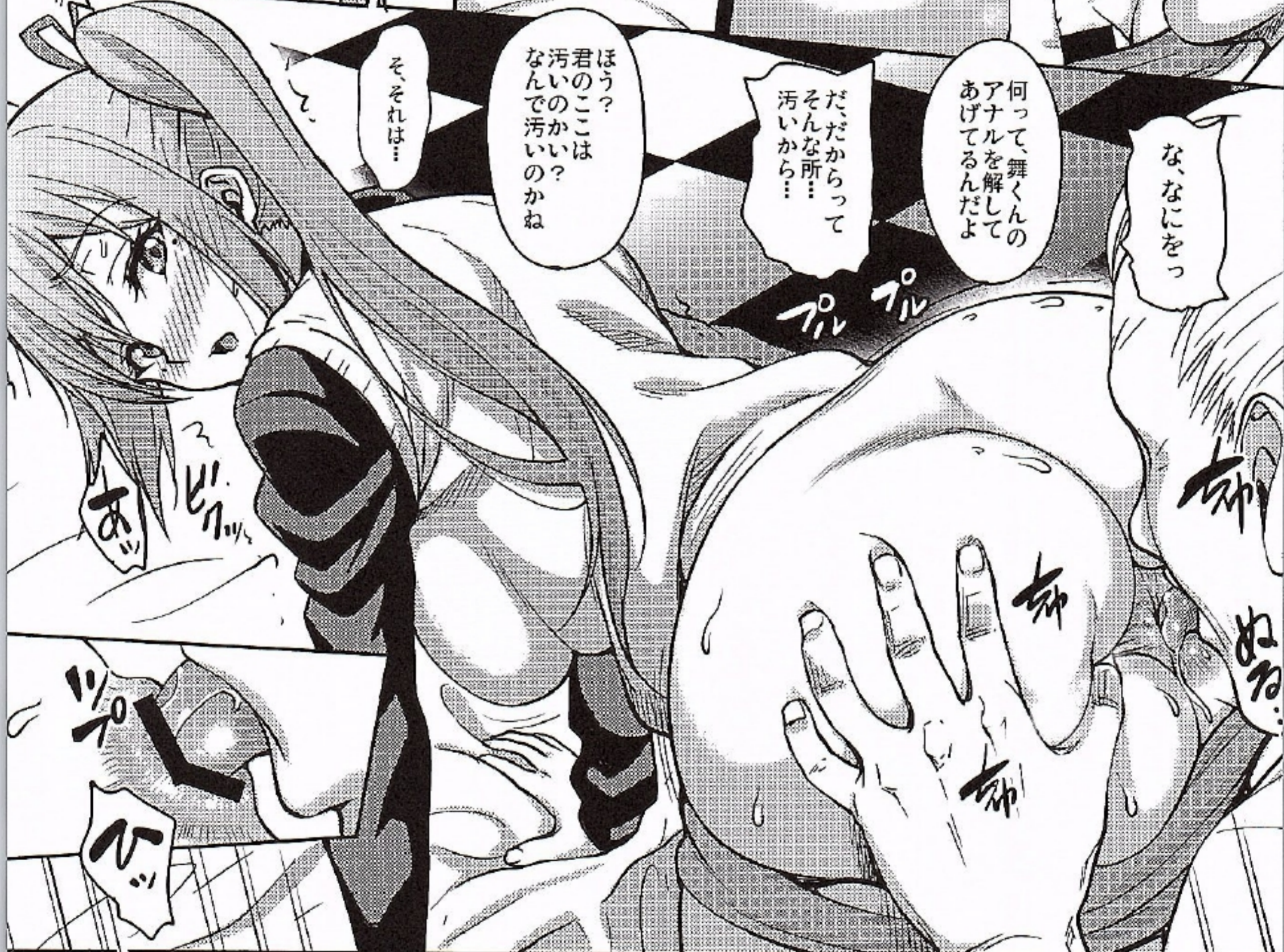


よしよし  
よく言えたな

う、うう...

それじゃ早速  
楽しませて貰おうか

びっ



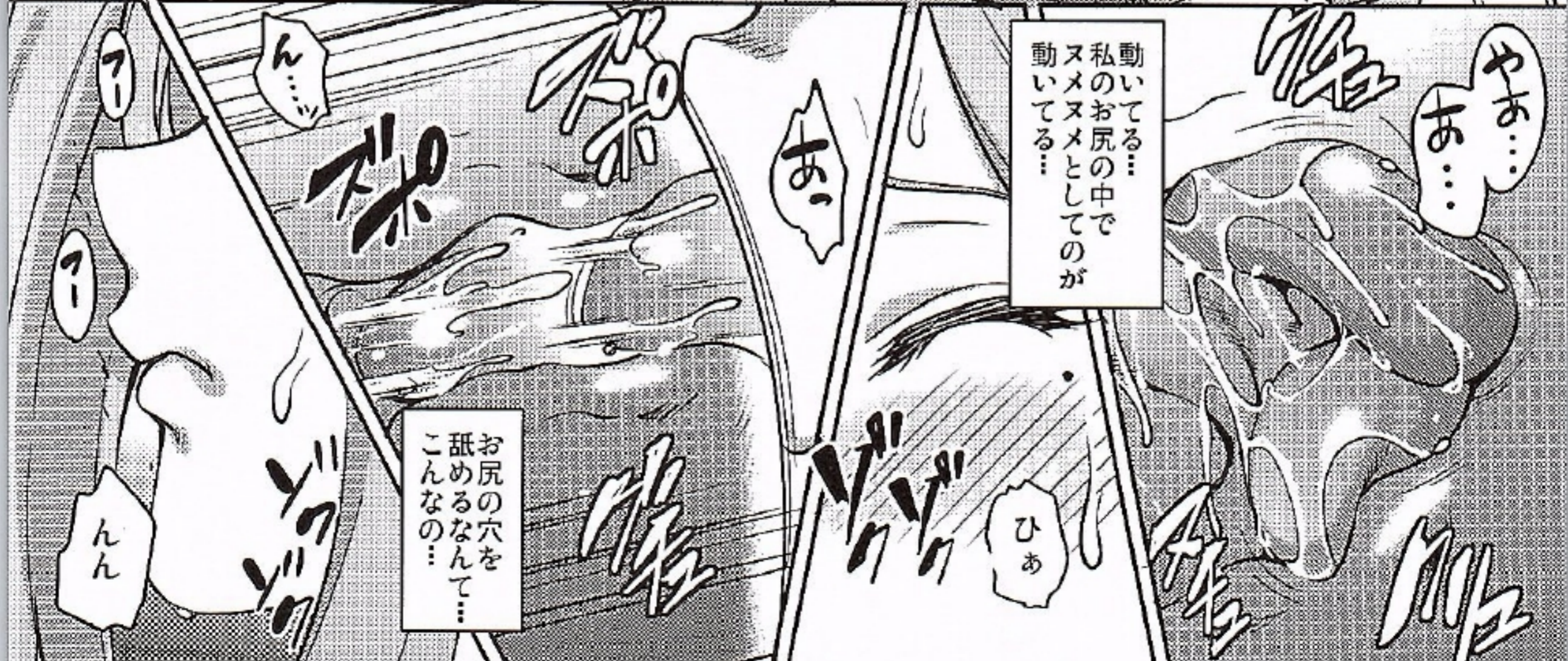
なにをっ

何って、舞くんの  
アナルを解して  
あげてるんだよ

だ、だからって  
そんな所...  
汚いから...

ほう？  
君のここは  
汚いのかい？  
なんで汚いのかね

そ、それは...



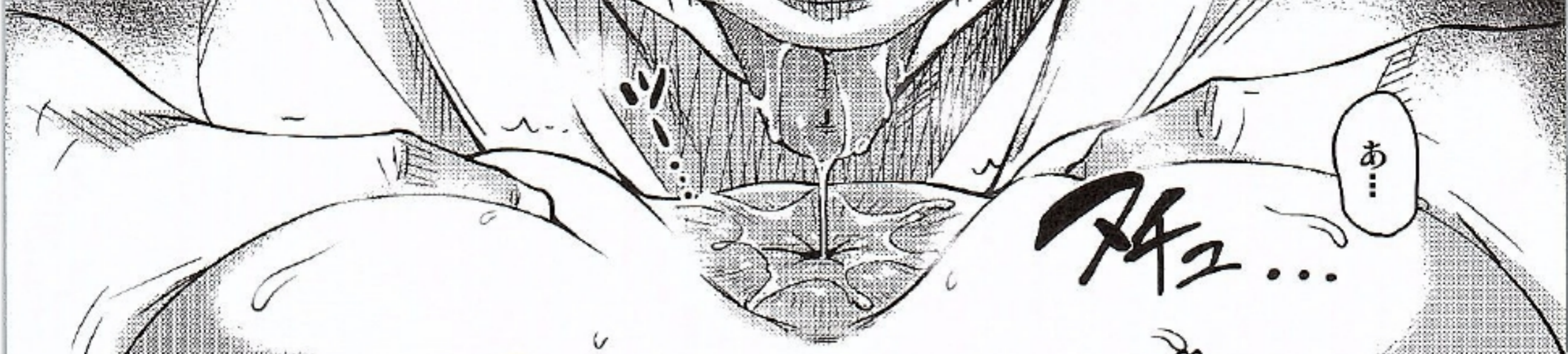
動いてる...  
私のお尻の中で  
ヌメヌメとしてのが  
動いてる...

お尻の穴を  
舐めるなんて...  
こんなの...

やあ...  
あ...

ひあ

ん



あ...

アユ...



随分と鼻息が荒かったがもしやアナルで感じたのか？

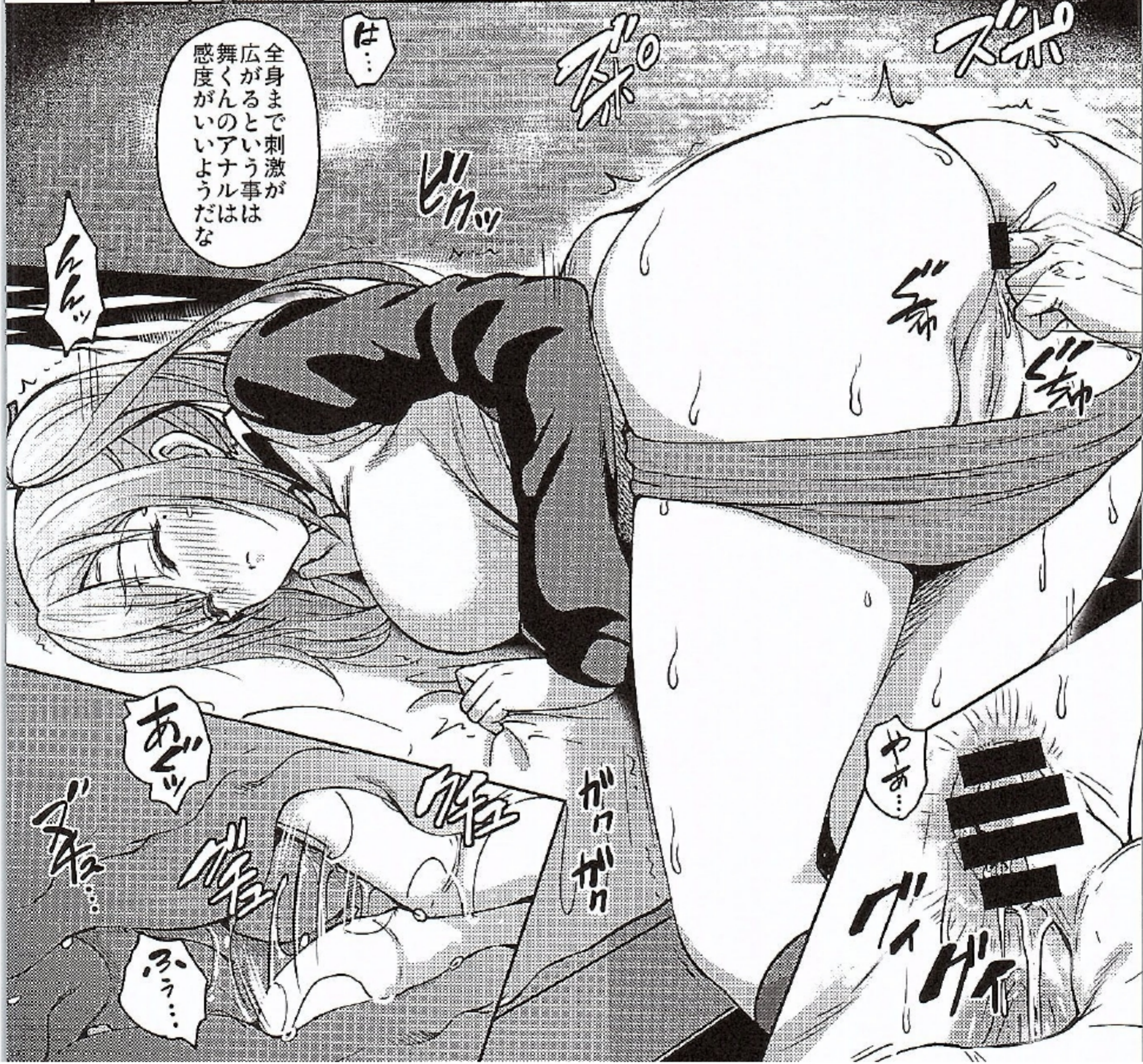
ち、違っそんなわけじゃないでしょッ

こんなところで感じるなんて... そんなの変態じゃない

ただ舐められてると全身がゾワゾワして気持ち悪かっただけよ

へえ...ゾワゾワね

んっ



全身まで刺激が広がるという事は舞くんのアナルはな感度がいいようだな

は...

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

ズキ

あ...

ズキ...

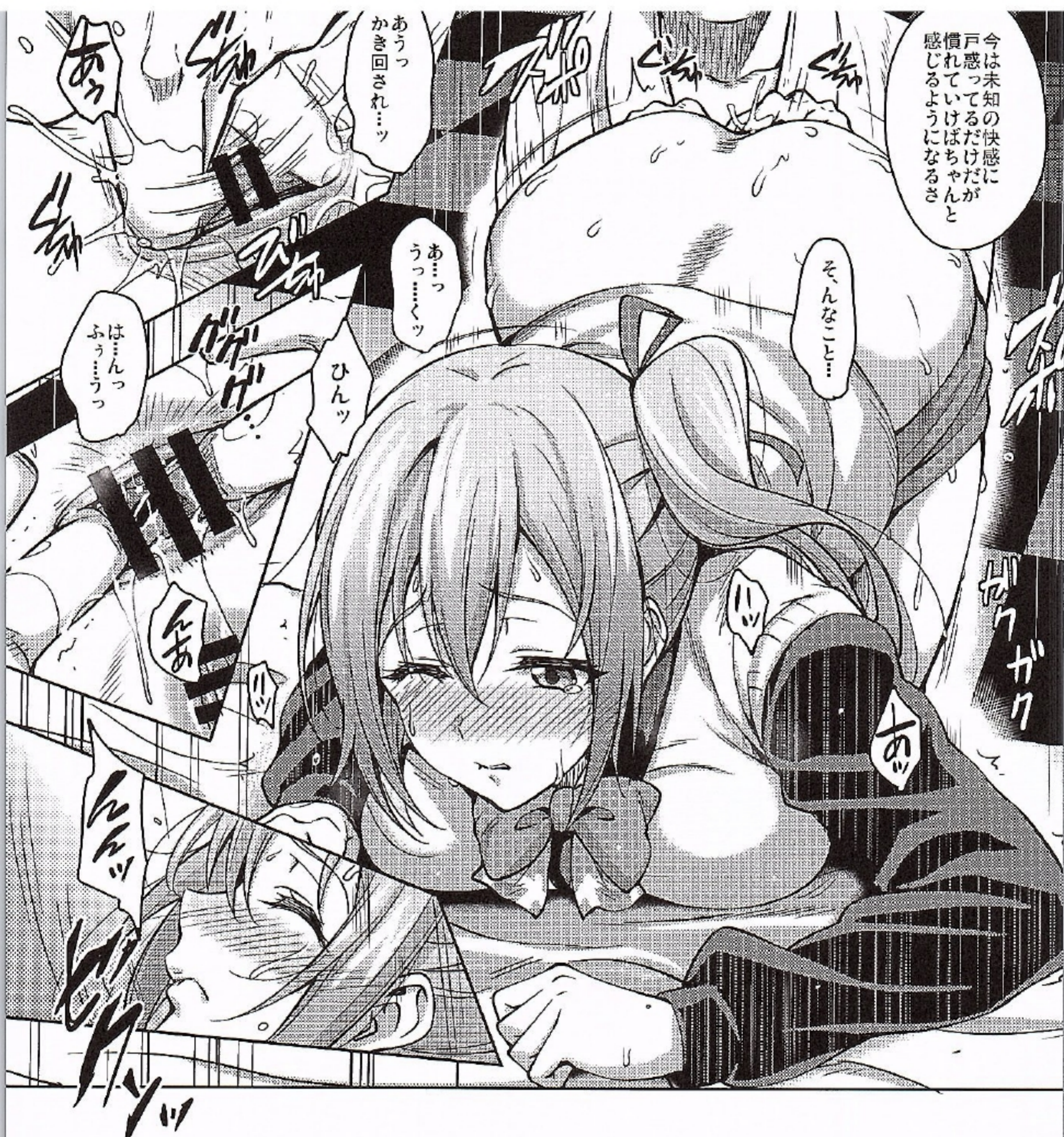
ズキ...

ズキ

ズキ

あ...

ズキ



今は未知の快感に戸惑ってるだけだが慣れていけばちゃんと感じるようになるさ

そんなこと...

あ...っ  
うっ...くっ

ひんッ

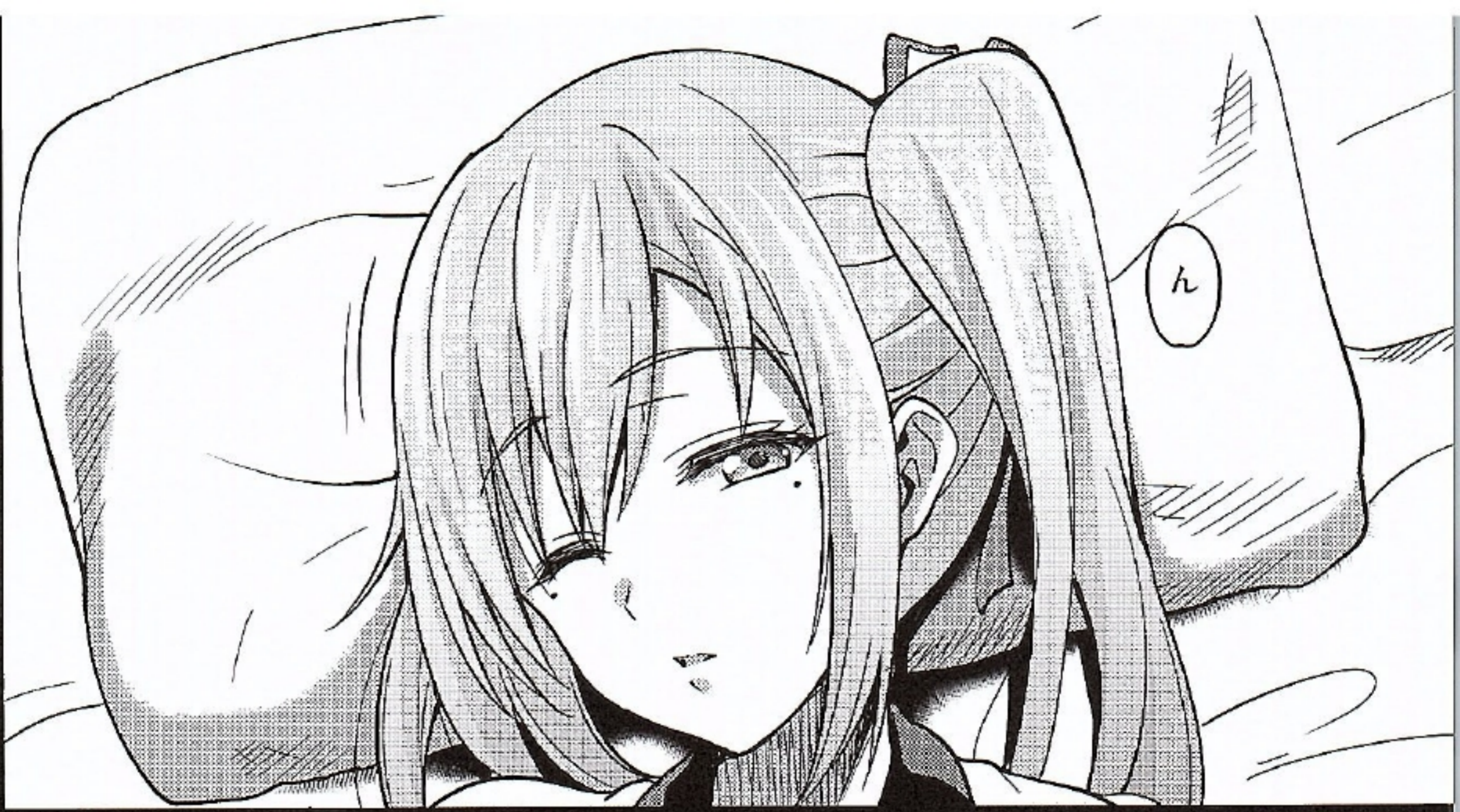
は...んっ  
ふう...うっ

それじゃまた明日も同じ時間に来てくれたまえ

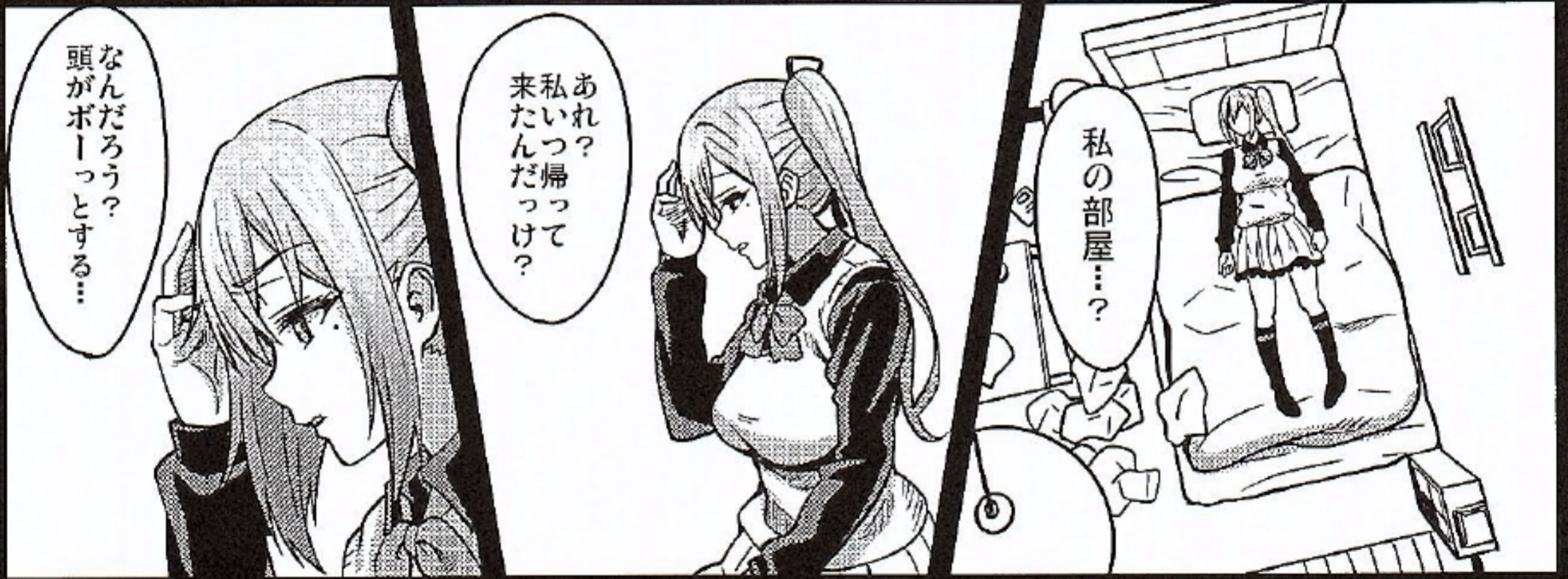
よし今日はこの位にしておこうか

は...い





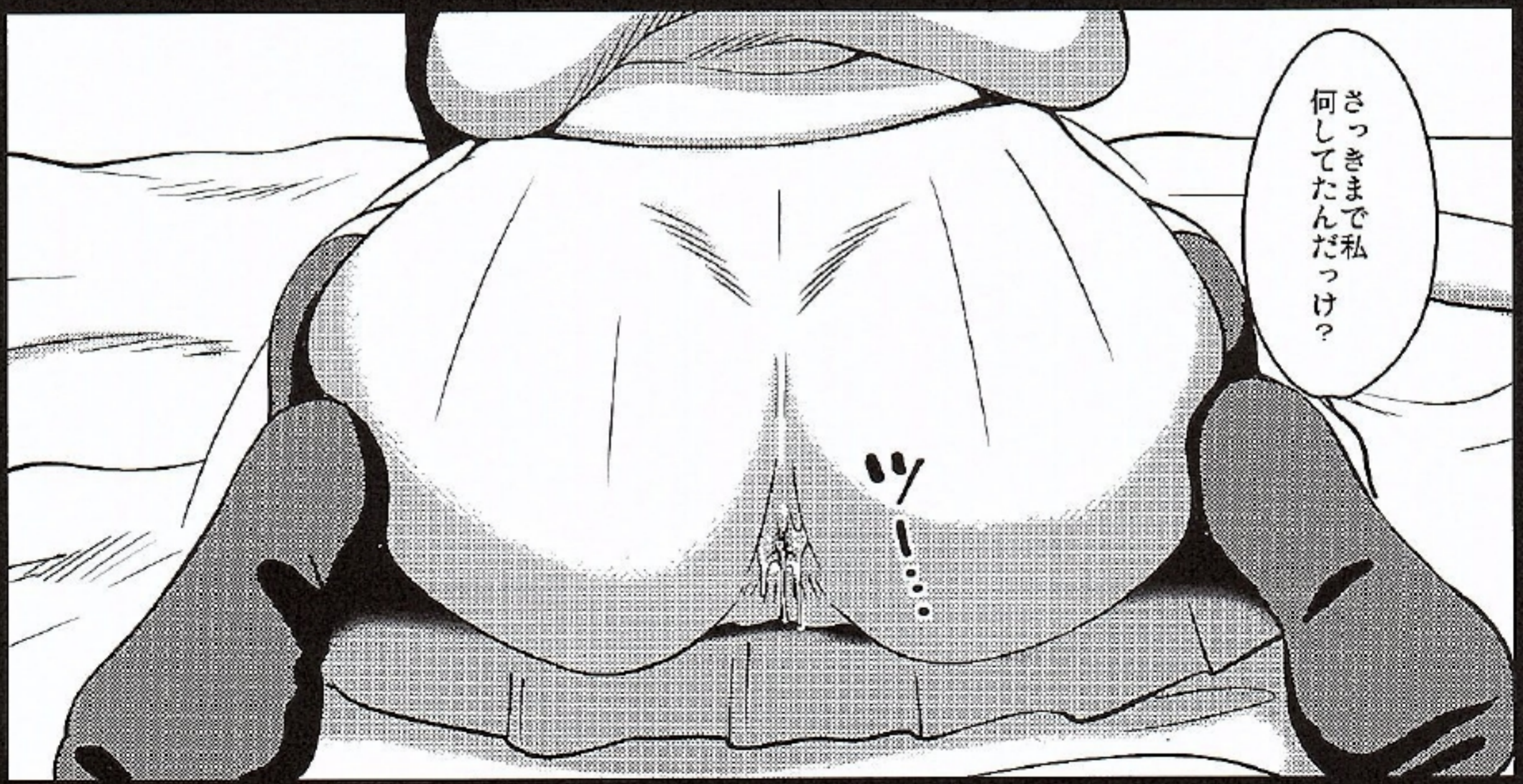
ん



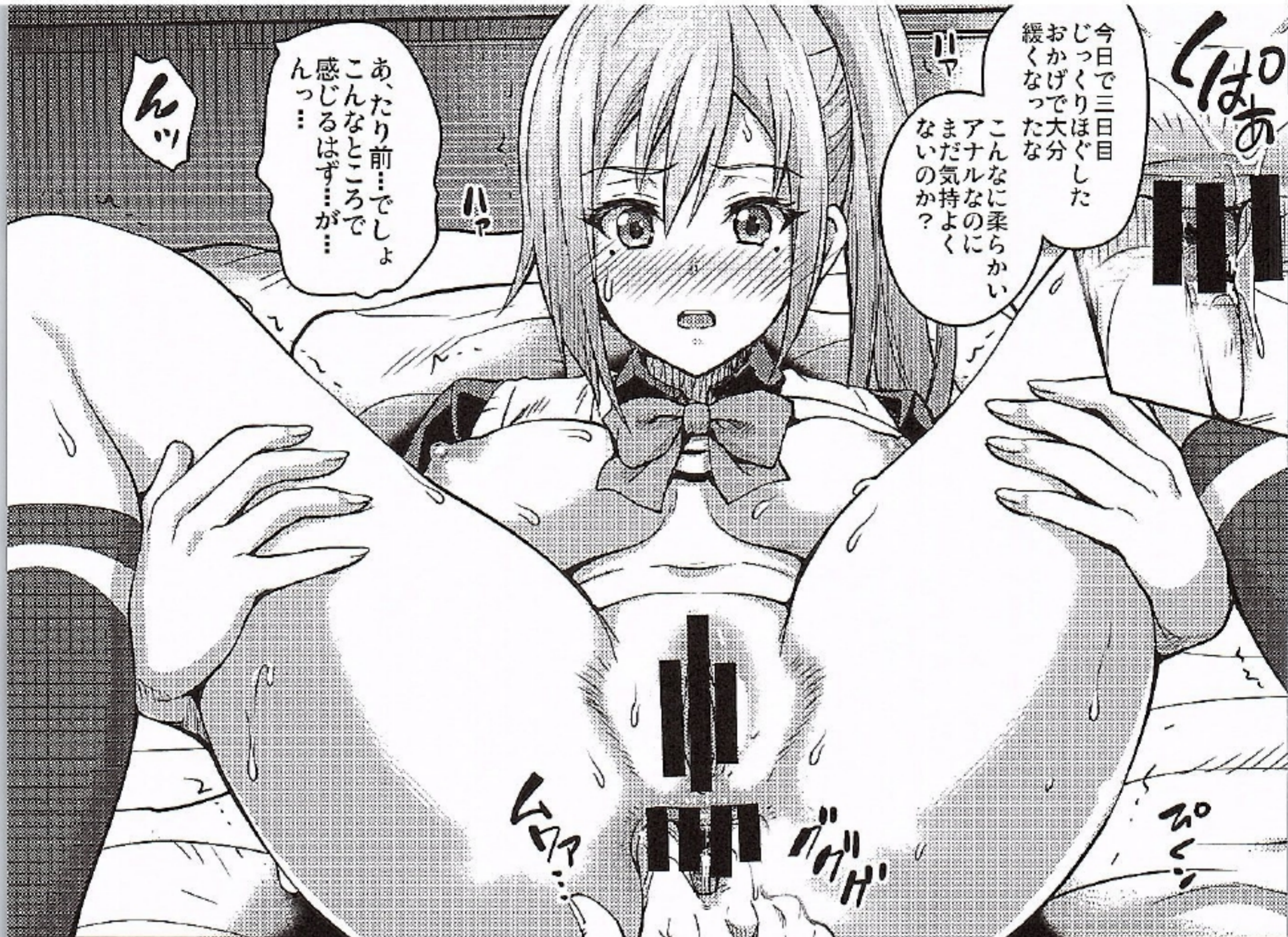
なんだろう？  
頭がボーっとする...

あれ？  
私いつ帰って  
来たんだって？

私の部屋...？



さっきまで私  
何してたんだって？



くはあ

今日で三日目  
じっくりほぐした  
おかげで大分  
緩くなったな

こんなに柔らかい  
アナルなのに  
まだ気持よく  
ないのか？

あたり前...でしょ  
こんなところで  
感じるはず...が...

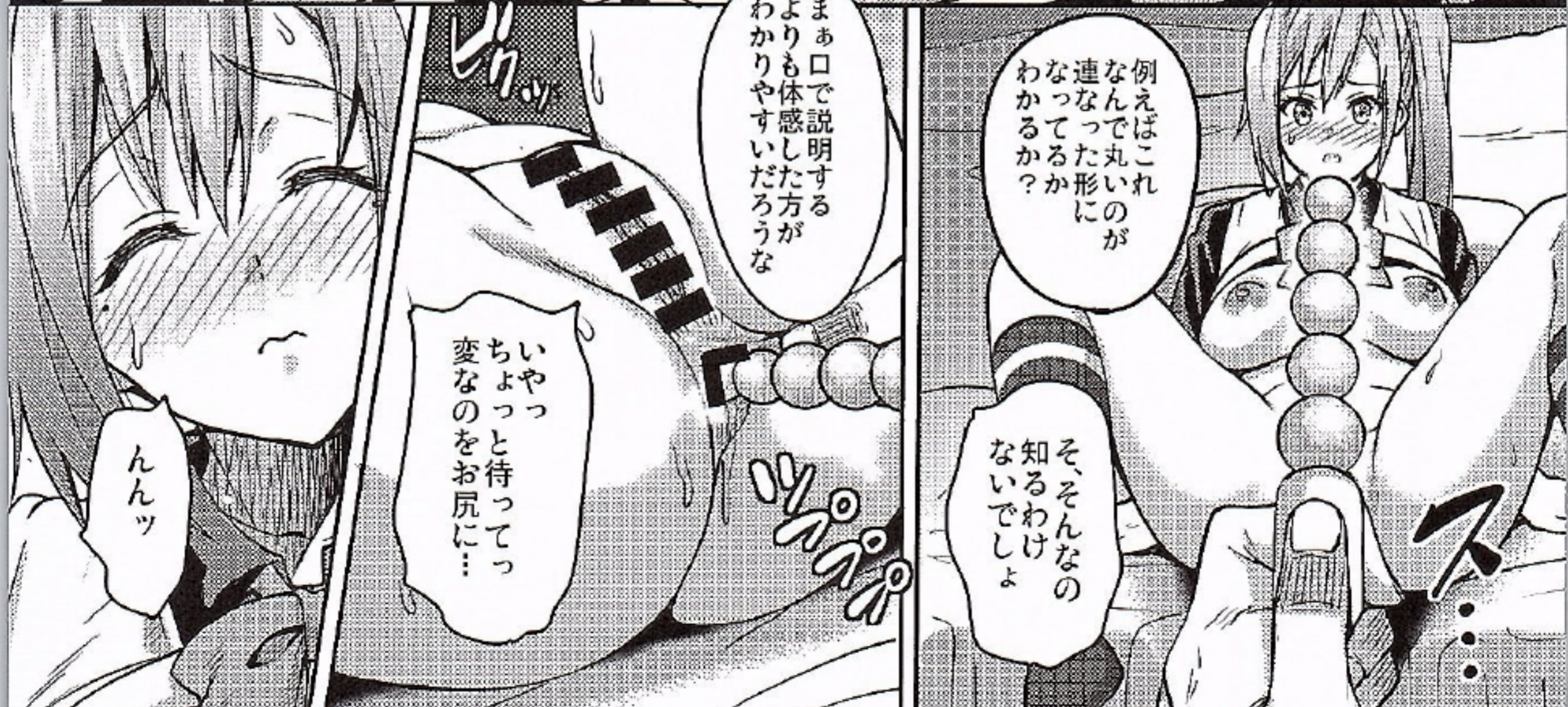
んっ



ふふ

今日はそんな  
君の為に  
沢山の道具を  
持ってきてあげたぞ

えっ



例えばこれの  
なんで丸いのが  
連なった形に  
なってるか  
わかるか？

そ、そんなの  
知るわけ  
ないでしょ

まあ口で説明する  
よりも体感した方が  
わかりやすいだろうな

いやっ  
ちよっと待ってっ  
変なのをお尻に...

んっ





ふん...んッ

んあっ...  
んっ

なに...これ...



ふーむ...そうかならわかるようにもっと激しくしないとだな

あ...あッ



玉の凸凹がお腹の中を刺激して...  
刺激して...  
お腹の中を刺激して...

それに抜き差しする度に玉一個一個が肛門にひっかかって...



その様子だと...  
しっかり感じてるみたいだな

そんなわけ...

指なんかより全然...



どうだい？  
アナルの良さを  
自覚できたか？

あ……あ……

返事がないな  
どうやら  
まだまだ足りない  
みたいだな



いや……違ッ  
私……その……

その？  
なんだ？

だから……  
あ……  
とにかくお願い  
だから1回お尻を  
休ませてッ



だめだ

あ……  
あ……  
あ……



あっ…

くひっ…  
くう…

ガッ  
ガッ  
ガッ

あッ

はぁ…  
あう…  
ッ

カッ  
カッ  
カッ  
カッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ



まあせつかく  
だからこのまま  
アナルでイキ癖を  
つけておこうか

いやあッ

そんな…

何を今更  
君が感じてたの  
なんて最初から  
見ればわかってたよ

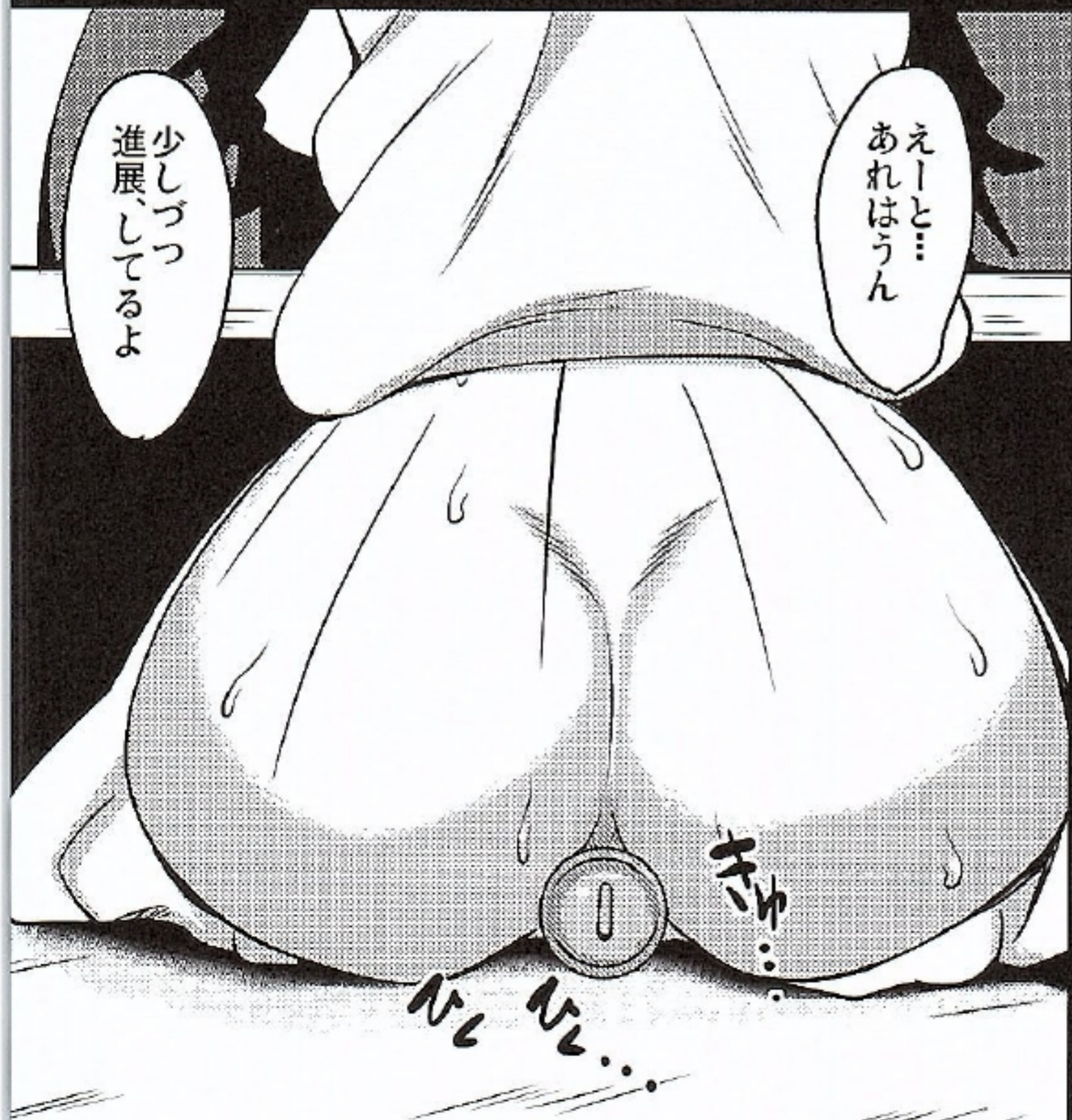


ゴメンナサイッ  
私嘘をつきましたッ

本当はお尻で  
感じてましたアッ  
だから…だから  
もう許してえッ

ハッ







今日で一週間

舞くんもすっかり  
アナルで感じる  
変態になったようだな

んっ

ゾル

ゾル

私が思った通り  
君には素質が  
あったみたいだ

だって...  
こんなに毎日  
お尻を弄られたら...  
誰だって...んっ

かき

きん

んっ



今日で最後だからな  
今まで一番の  
快感を与えてやるぞ

ふふ

君も知ってるように  
アナルは弄っていると  
血流が良くなり  
非常に敏感になる

その状態のまま  
刺激を与え続けると  
脳は快感を訴え  
体は快楽に身悶える

これは君自身  
が今まで散々  
体験した事だろう

ツツ

今まで  
一番...

んっ

アアア

そして激しい刺激を  
与え続けてやると  
絶頂に至るわけだが！

もしイクほどの  
刺激を与え  
なかったら？

脳は快感を  
訴え続けるが  
絶頂には至らず

体は痙攣するほど  
快楽を感じるが  
気絶する事も  
出来ない

まさに快感地獄だ

え？

今日までで敏感に  
なった君のアナルに  
このバイブプラグで  
刺激を与え続けたら  
どうなるのか？

舞くんはどこまで  
音をあげずに  
耐えられるかな？

ちよ、ちよっと  
待って

そ、そんな事しなくても  
もうお尻でちゃんと  
感じるからッ

いや...  
嘘でしょ...?

これ以上気持よく  
されたら私！

MAX  
OFF

ひっ

やあっ...  
うう...

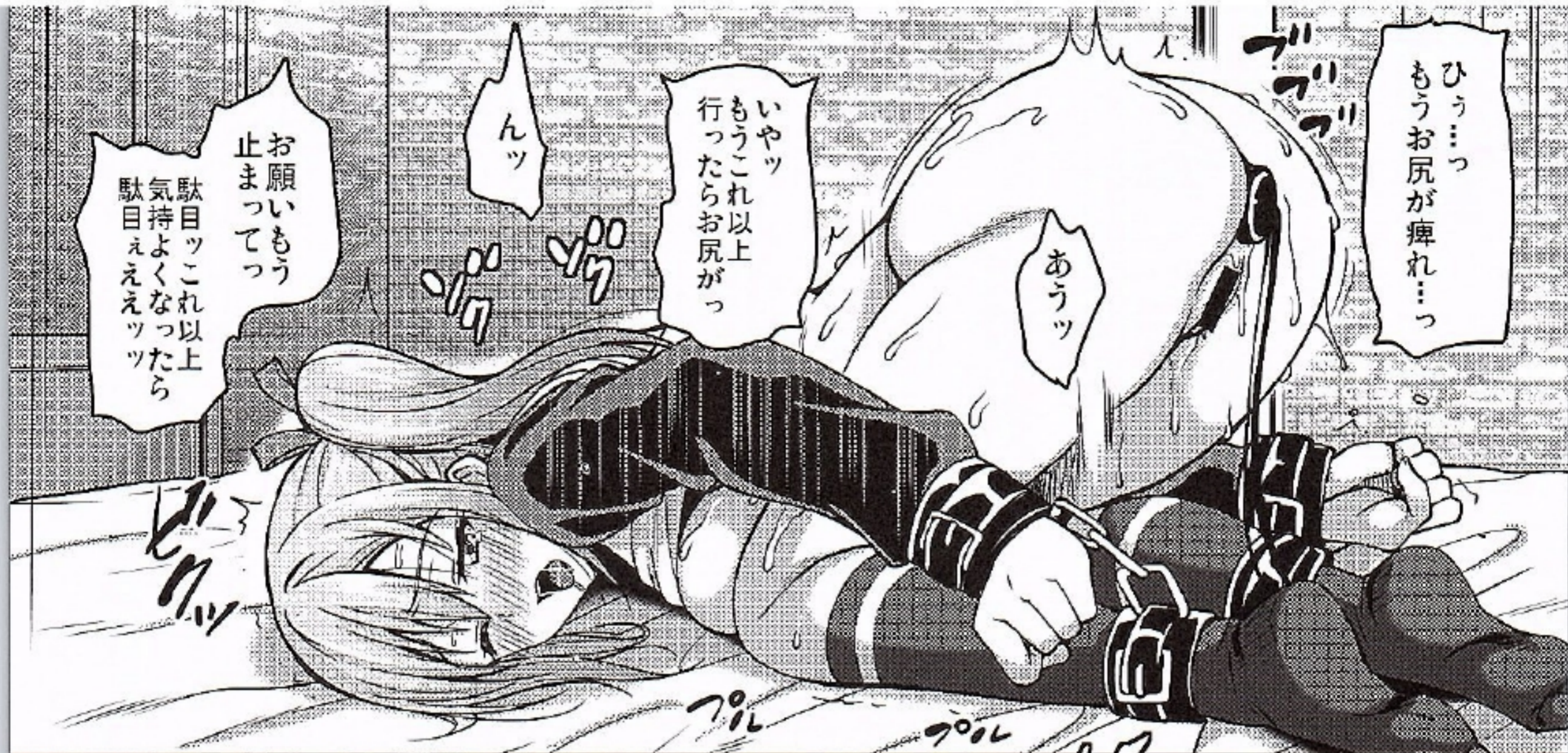
あ...っ

そろそろ  
どんだん尻の穴が  
敏感になってくぞ

くうっ

がが

がが



ひびくッ  
もうお尻が痺れ...

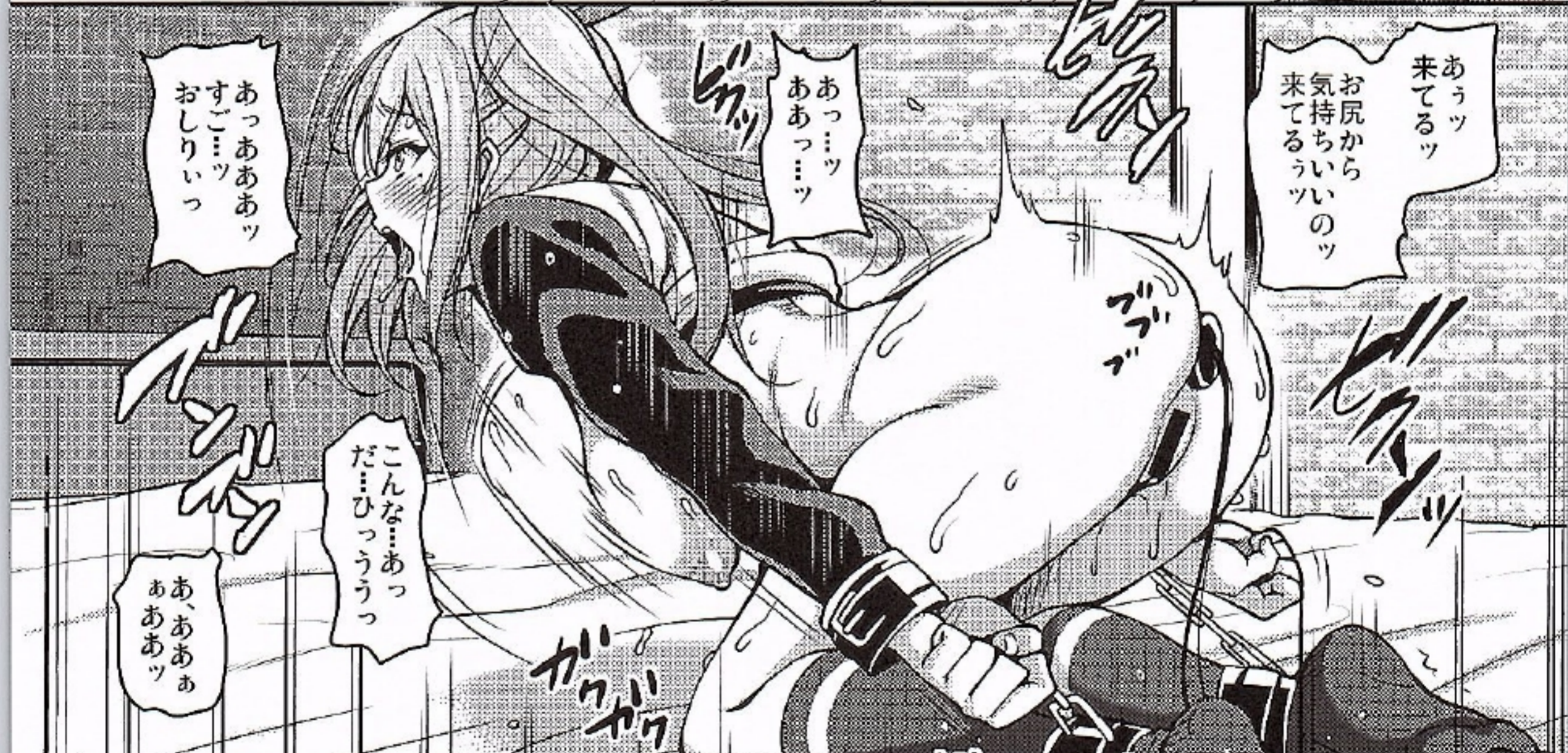
いやッ  
もうこれ以上  
行ったらお尻がッ

あうッ

んッ

お願いもう  
止まってッ

駄目ッこれ以上  
気持よくなッたら  
駄目えええッ



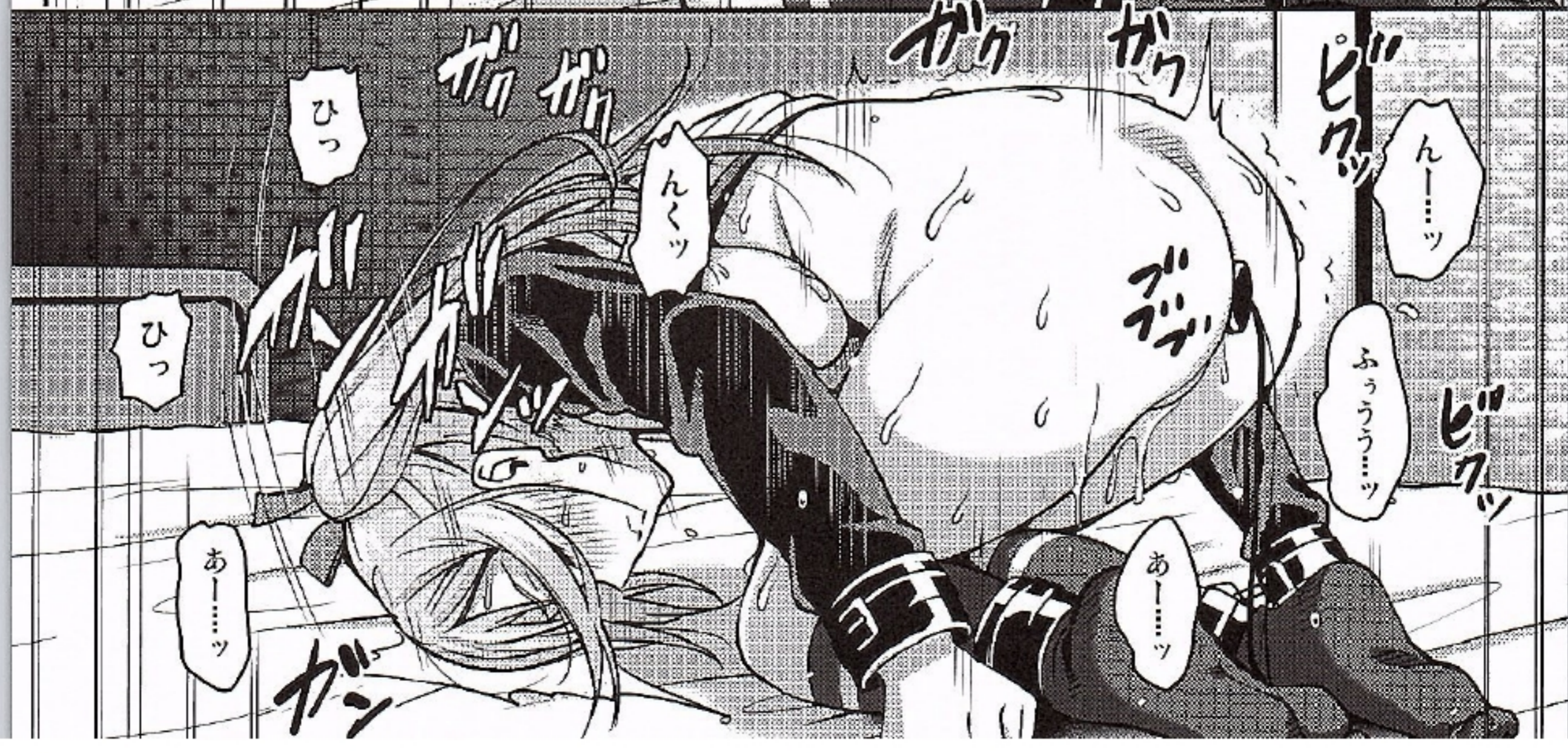
あうッ  
来てるッ  
お尻から  
気持ちいいのッ  
来てるういのッ

あッ...ッ  
あッ...ッ

あッああッ  
すッ...ッ  
おしりいッ

こんな...あッ  
だ...ひッううッ

あ、ああッ  
ああッ



ん...ッ  
ふうッ...ッ

あッ...ッ

んッ

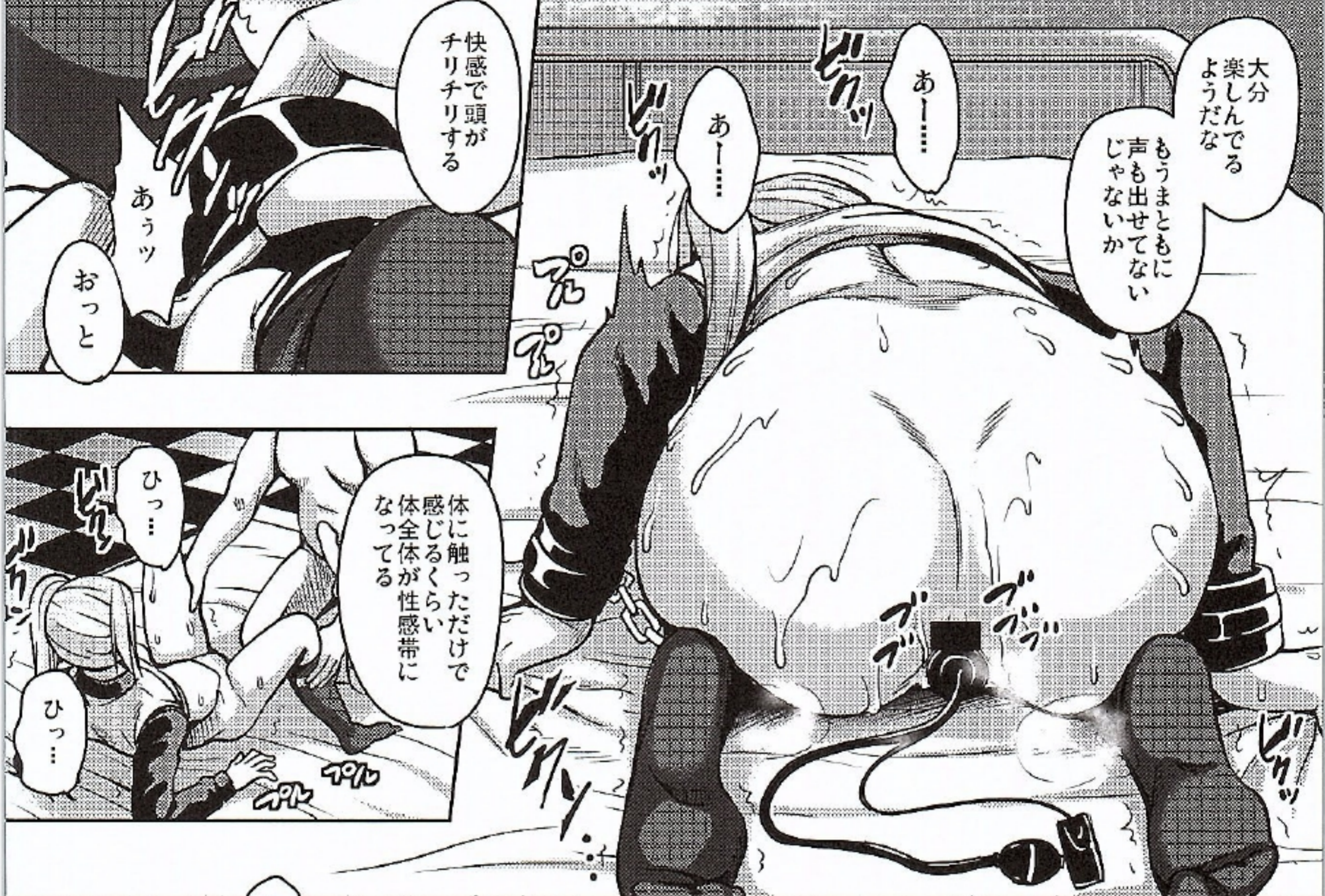
ひッ

ひッ

あッ...ッ

ガッ





大分  
楽しんでる  
ようだな

もうまともに  
声も出せてない  
じゃないか

あー…

あー…

快感で頭が  
チリチリする

あうッ

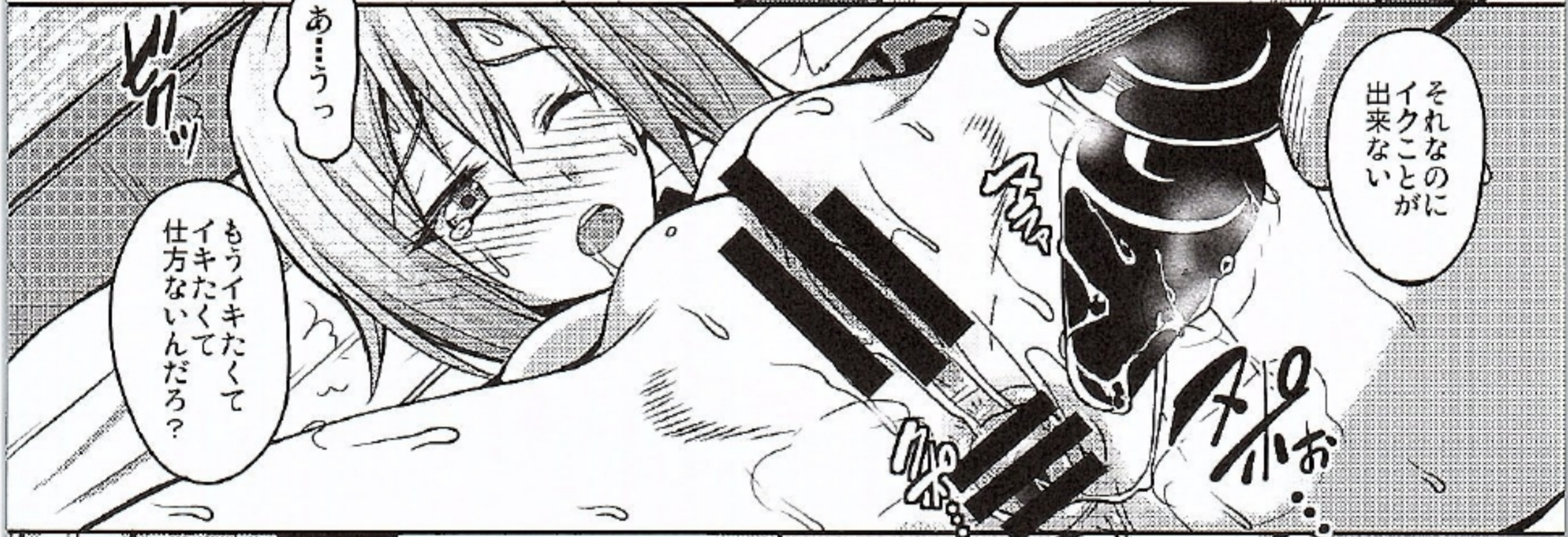
おっと



体に触っただけで  
感じるくらい  
体全体が性感帯に  
なってる

ひっ…

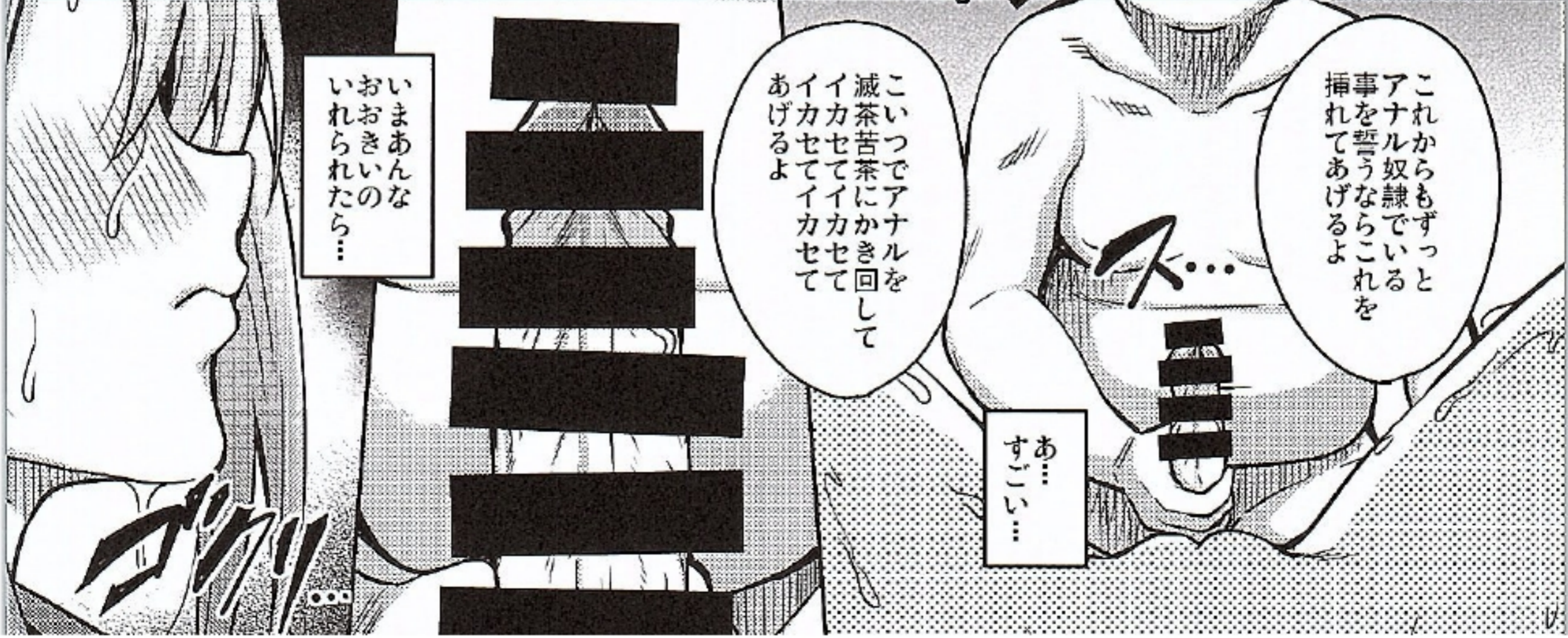
ひっ…



それなのに  
イクことが  
出来ない

あ…うッ

もうイキたくて  
イキたくて  
仕方ないんだろ？

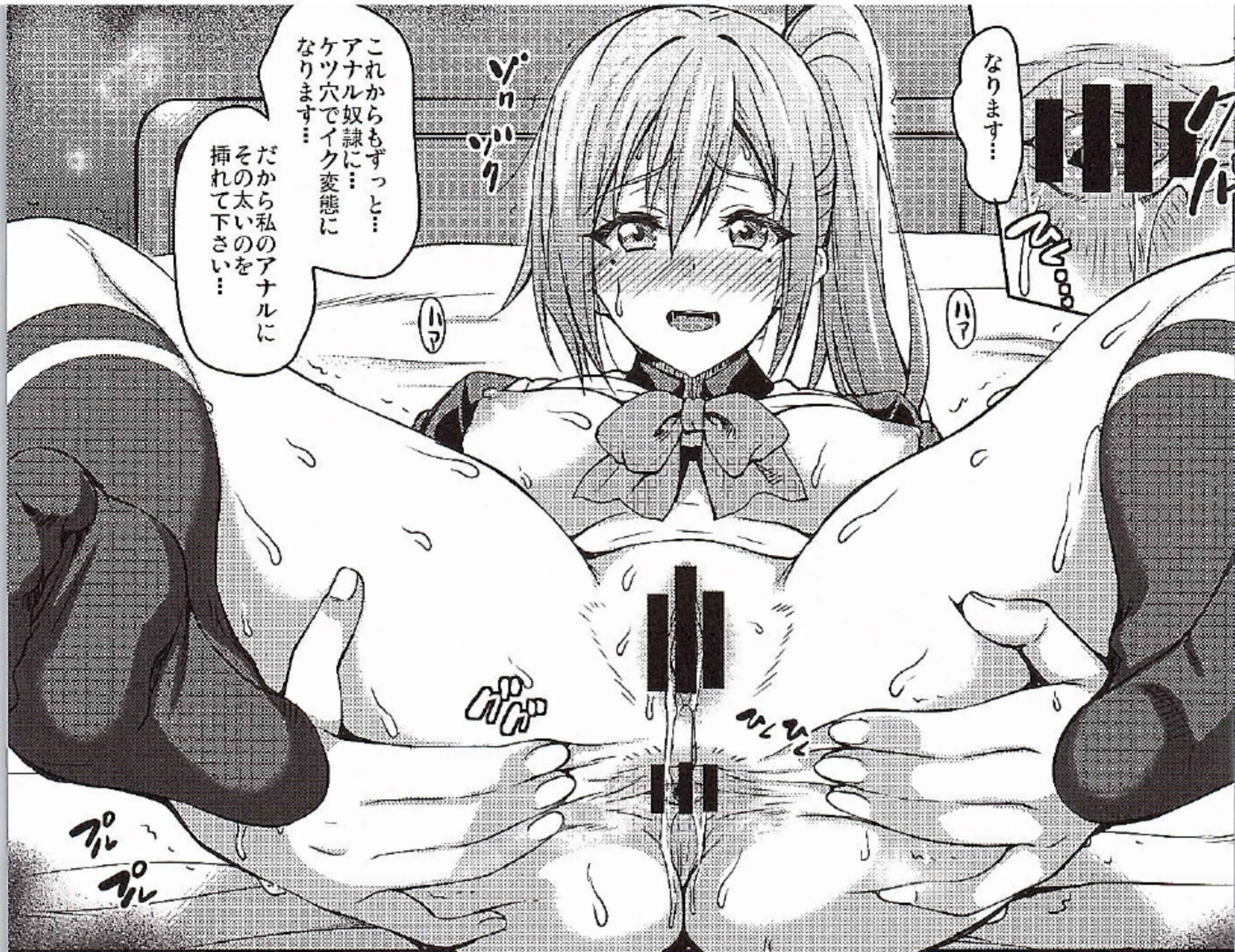


これからずっと  
アナル奴隷でいる  
事を誓うならこれを  
挿れてあげるよ

こいつでアナルを  
滅茶苦茶にかき回して  
イカせてイカせて  
イカせてイカせて  
あげるよ

いまあんな  
おおきいの  
いれられたら…

あ…  
す…



なります…

これからもずっと…  
アナル奴隷に…  
ケツ穴でイク変態に  
なります…

だから私のアナルに  
その太いのを  
挿れて下さい…

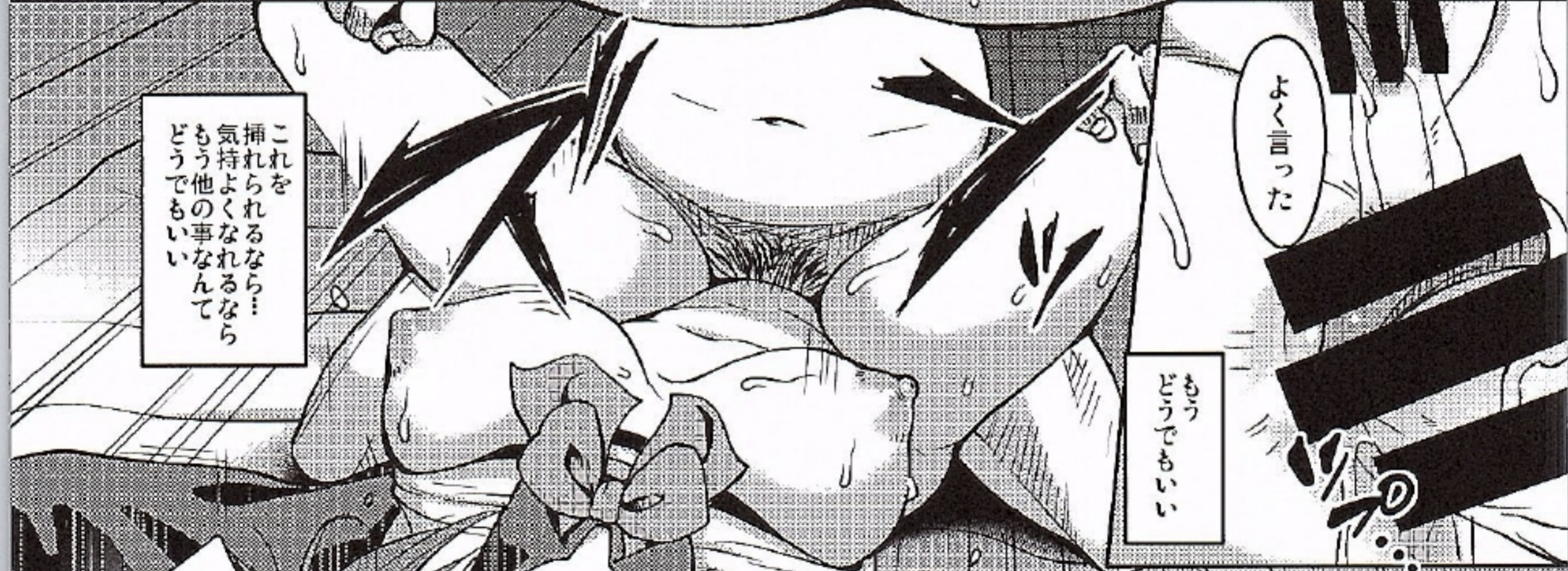
ゾロゾロ

ムムム

ググ

ムム

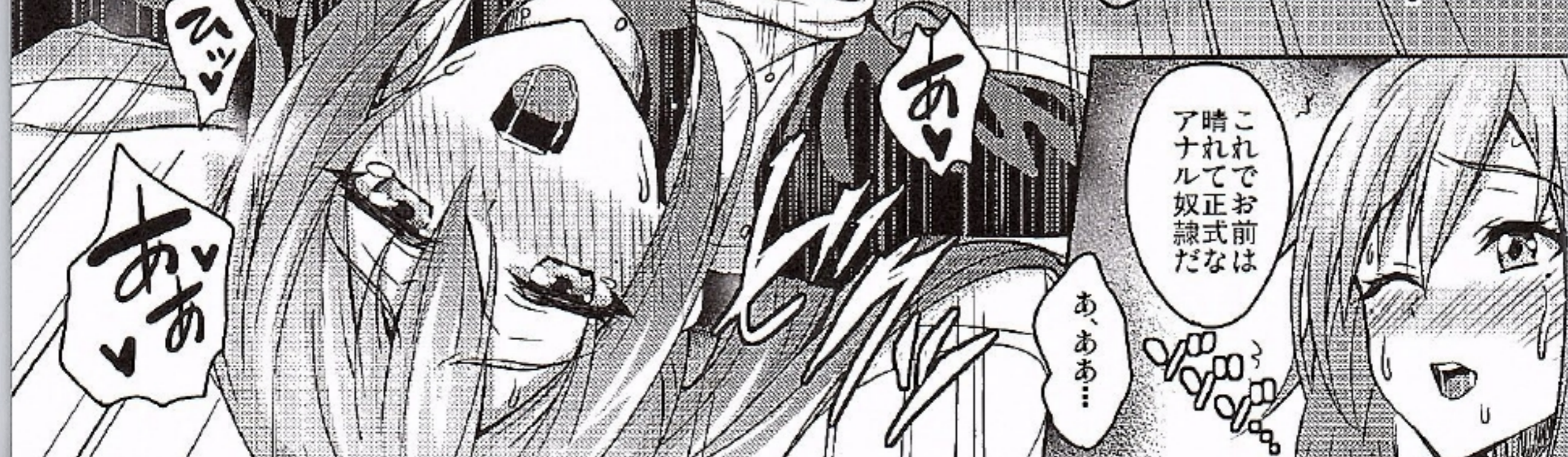
ブルブル



よく言った

これを  
挿れられるなら…  
気持ちよくなれるなら  
もう他の事なんて  
どうでもいい

もう  
どうでもいい



これでお前は  
晴れて正式な  
アナル奴隷だ

あ、ああ…

あ、あ

あ

ムムム



あ…っはあッ  
すじ…いいッ  
これ…  
気持ち良すぎるよ

あ♡  
びんっ

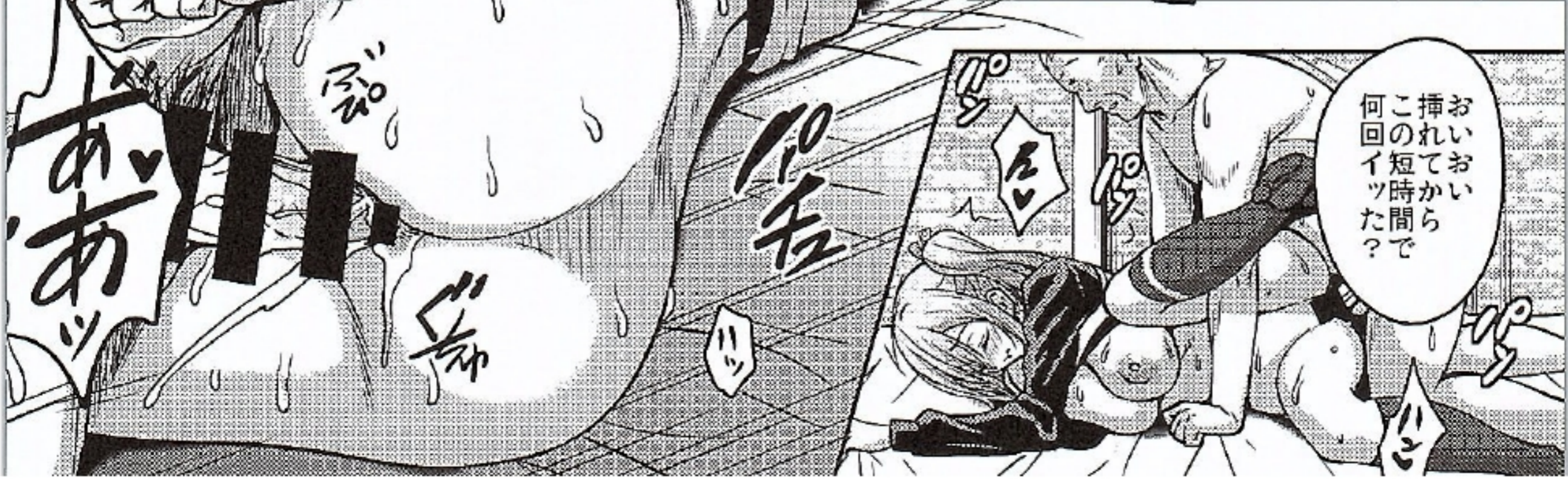


ホントにこの  
アナル奴隷は  
貪欲だな

だ…っ  
これ…良すぎ…て  
あ…っ…あああ

あ、たまが…  
真っ白にいッ

びんっ



おいおい  
おいら  
この短時間  
で何回  
イッた？

あ♡あッ

びんっ

びんっ

びんっ



ダメメツ  
お尻：  
感じすぎるウツ

腰が：  
止められない...

自分でケツ穴を  
ズボズボして  
快感を求めるとは  
もうすっかり  
ド変態だなり

あ...んツ  
変態でもいいッ  
こんな気持ち  
いいなら私...  
変態になりますウツ

あ...ッ  
また、イ...ッ

あ...ッ  
ハッ

アッ

アッ



乳首いッ  
そんな扱かれたら  
またイツちや...

あッ♡  
えれん♡

あッ♡

あッ♡

いッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

そろそろ  
イキそうだ...

次は私に併せて  
いきなさい

は...

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

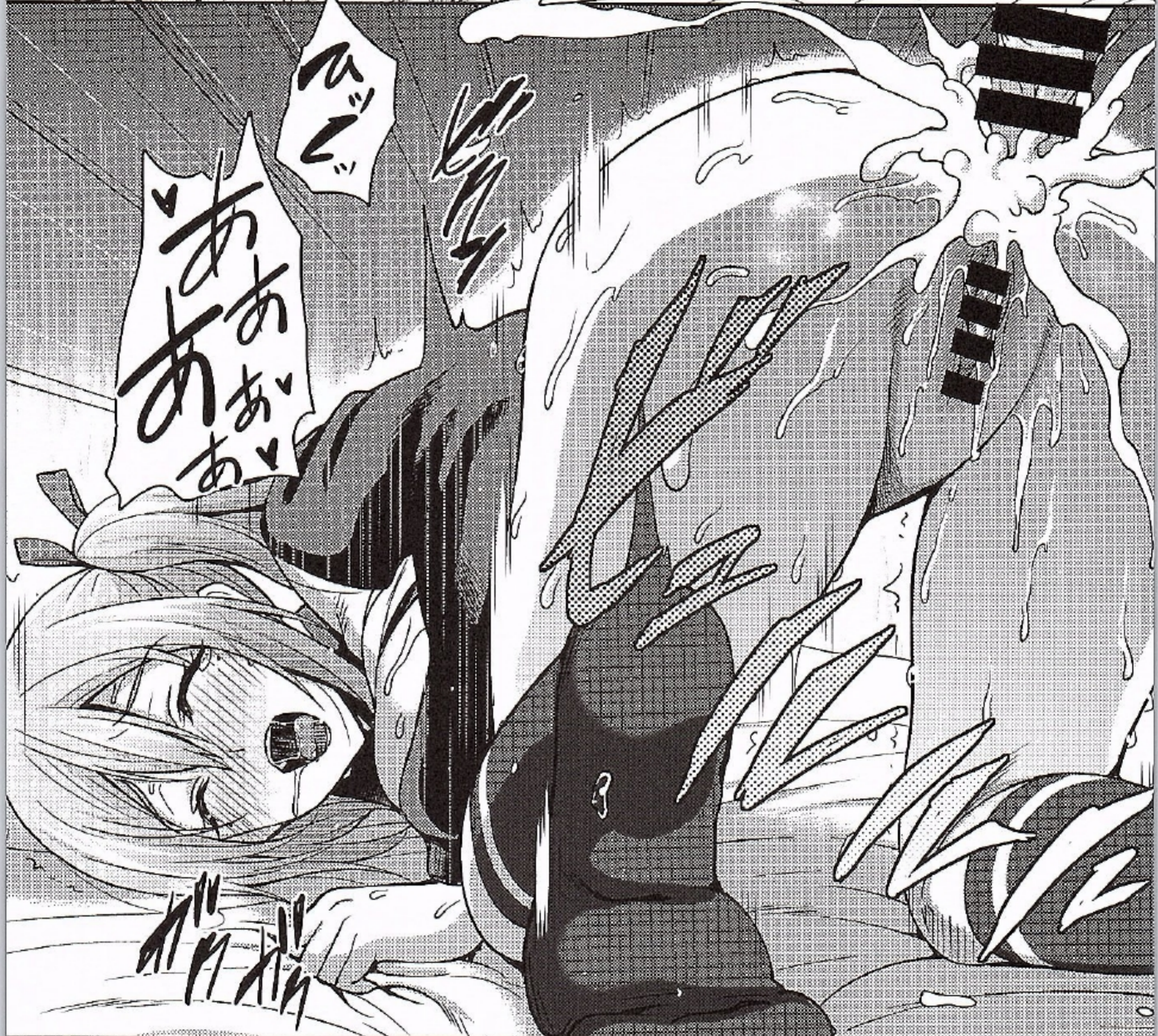


あ、あっあっ  
私またっイッちゃう  
またイキそうですっ

早くっ  
私もう我慢があっ

よじっ  
こっちさきさきう出るぞ

あ、ああっ



あああ  
あああ  
あああ

あ  
あ



すっかりトロけた  
牝の顔になった

ハア...

これからもずっと  
アナルでよがり  
続けるんだよ  
舞くん

ハア  
ハア

川島舞の調教  
ご苦労様でした

この仕上がりなら  
クライアントも  
満足するでしょう

処女のまま  
アナルで絶頂する  
変態奴隷！  
さすがにやささか  
苦労しましたよ

ふふふ！  
学校運営の為のとはいえ  
スポーツの要求に  
応えるにはお互い  
難儀しますね

それにしても  
我々ファントムの  
力を利用して  
催眠状態から少しづつ  
意識と肉体を改変

心身ともに淫乱に  
変えてしまおう  
この仕組を考えた  
あなた方には  
感服しますよ

あなた達ファントムの力の  
おかげで以前より  
スムーズに商品作  
作れるようになりました

排除すべき存在の  
我々すら利用するとは！  
いやはや真に  
恐ろしいのは人間ですね

それは当然でしょう

ファントムとは  
人の強い思いから  
生まれる存在

その根源たる  
人間の深淵には  
深く及ばないのは

ニ  
↑  
○  
○  
○

# あとがき



どうも、はじめまして&お久しぶりです。もんおちです。

今回は無彩限のファントム・ワールドから舞先輩です。

もうね、ホントに舞先輩はエロくてツボに入ったキャラでした。京アニさんの描く女性キャラはガタイがよくてムチムチしててエロさが最高だと思います。

何よりブルマ、いいですよね…。

本の内容の話をするとなナル！アナル！アナル！って感じなんですがこれは舞先輩のアナルをめちゃくちゃにしたい！という衝動に襲われたからです。

それと本来ならページ数が少ないので二部作にして前半はアナル調教編後半はみんなの前でお披露目編にしようかと思ったのですが思いの外オチとして落ちてしまったので後半はまあいいかなってなりました。

あとオチにファントムの幻覚ネタを使うなら最後はファントムによる触手プレイとか諸々考えたのですが時間的に無理だわーってなって諦めました。

毎回時間を言い訳にしていますね。

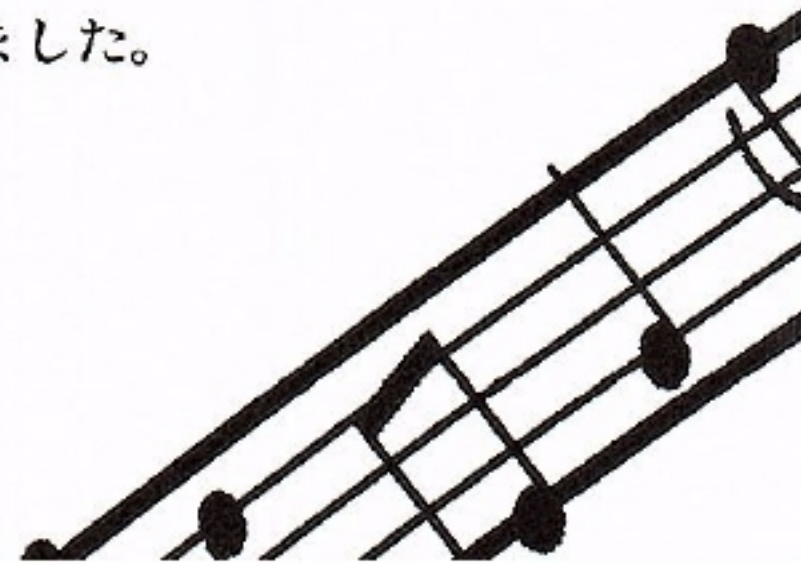
まあこんなところでしょうか。

商業の方はちょっといまスローペース気味ですがボチボチやっていこうかと思っています。

とりあえず近いうちにメガストアαには載ります。その後は未定です。

それと追加ページとしてイラストとシナリオを書いたのでそちらもどうぞ。漫画で描けなかったスカ要素があるので苦手な方は本をそっ閉じしてください。

最後に今回はこの本を手にとっただけ有り難うございました。特殊な内容ですが使えて貰えれば幸いです。





「おやおや、中には茶色い物が沢山詰まってるな」

男はクスコ？とかいう道具で私のお尻の穴を広げてそう言った。

「それにひどい臭いだ。部屋の中まで充満するようだよ」

男は下品な笑いを湛える。

「一体これは何なのかな舞くん？教えてくれないか？」

「そ、それは……」

そんなの1つしかないじゃない。

私の口からわざわざ言わせようなんてどこまで人を辱めれば気がすむのだろう。

「……ウ、ウンチよ……」

私は顔を真赤にして答えた

一番人に見られたくないものを見られてる。

今にも恥ずかしくて死んでしまいたいくらいだ。

「ハッハッハ、そうかウンチか。」

舞くんみたいな子でもウンチは溜まるんだな

「当たり前でしょ！そんなの誰だって同じよ！」

羞恥心から私は声を荒げる。

そんな反応も楽しいかのように男はまた大きく笑った。

「しかしケツの中がこんなではアナルを弄れたものじゃないな。」

この沢山溜まった臭いウンチを出さないと駄目だな。

確かにこのままでは私のウンチで汚れてしまうだろう。

「そ、それじゃトイレに行くからお尻の外してよ」

「いや、トイレに行く必要なんてない。ここですればいい」

「は？」

男はいままでこの二ヤけ面を止めて冷たく言い放った。

確かにここで拒否すれば何もかもがなくなってしまう。

「大切なモノを守るためなんだろう？」

そうだ。そのとおりだ。

私には拒否権なんて最初からなかったのだ。

「わかったわよ……すればいいんでしょ」

私は表面上投げやり気味に言った。

これが精一杯の抵抗だったのだが男に見透かされていたようだ。

「そんな言い方じゃ駄目だな。」

「ちゃんと『洗腸をして私の臭いウンチを出させてください』とお願いしろ」

しばし絶句してしまった。

この男はとことん私を辱めるつもりなのだろう。

「か、洗腸をして私の……臭いウンチを出させてください……」

震える声で絞り出すように声を出す。

恥ずかしくて、悔しくて、私の目頭は熱くなった。

そんな私に満足したのか男はハハハと大笑いをして部屋を後にした。

「ほら、入れるぞ」

準備を終えた男はそう言った。

「はい」

自らお尻を広げ、肛門を大きく曝け出した私のアナルに

注射器を大きくしたようなものが挿される。

「ん……」

ひんやりとした感覚が伝わる。

指とは違う冷たさに私の肛門はキュッとしまる。

「あ……んっ」

思わず反応してしまふ。

顔は見えないが男はニヤニヤと笑ってるに違いない。

「ケツ穴で気持ちよくなってるどころ悪いがそろそろ入れられて貰うぞ」

男がそういうと私の直腸に液体が流れ込んできた。

「あ……あ……」

いまままで感じたことのない刺激が私のアナルを滑っていく。

そして指では届かない奥の方までじんわりと冷たい感覚が広がっていく。

「う、う……」

液体を入れられた。

ただこれだけの事なのに私の体は敏感に反応してしまふ。

決して気持ちいいわけではないが未経験の刺激に私は身悶えてしまった。

「ハッハッハ。初めての洗腸でこの反応か。」

やはり舞くんはアナルの素質があるな

男は楽しそうにそう言う

「二本目の水をバケツから吸い上げた。」

そのかわり君の……数日の努力が無駄になるだけだ」

「う……く……」

何本入れられたのだろう？  
お腹が張って膨張感でキリキリと痛む。  
腹を下した時のように肛門に力を入れてないと今にも漏らしてしまいそうだ。

私は一縷の望みをかけてニヤニヤと笑みを浮かべる男に最後の懇願をした。  
「お願いします……せめてトイレに……トイレでさせてください」  
今にも漏れそうなお尻を押しさえ屈辱的な土下座しながら私はそう言った。  
だが男の答えは想像した通りのものだった。

「駄目だ」

たった一言。それだけだった。  
絶望感が私を包む。もう長く我慢出来そうもない。

人前でウンチを漏らしてしまう。  
羞恥心で動悸が激しくなる。

そんな私の様子を見ていた男が手に持った道具を肛門に突き刺してきた。

「あ……ッ」

堅く閉じられた肛門を無理やりこじ開けられる痛みには私は呻いた。

「そんなに糞をぶち撒けたくないなら栓をしてあげるよ」

「栓……？」  
なるほど確かに入り口に物を入れればその分漏れにくくなる。  
だけど男が入れたのはただの棒ではなかった。

「え？え？」

突然私はお尻の中が広がる感覚に襲われた。

「や……あ……なに……これ」

男が手に持ったポンプのようなものを握る度に私の中で栓が大きくなる。

「これはアナルバルーンと言ってね。」

ポンプで空気を送ると膨らむようになってるんだ」

そう説明すると男はさらにポンプを握り空気を送り込んできた。

「あ、ああ……ッ」

私のお尻の中でどんどんバルーンが大きくなる。

それに伴い耐え難い刺激も襲ってきた。

「や、やめ……これ以上大きくなったらお尻がッ」

いままでも指や道具でお尻の中を広げられた事はある。

だけどこれはそれを遥かに超えた膨張感だ。

トイレを我慢してる時に直腸が便で広げられる感覚。  
その何倍も大きくした激しい便意にも似た刺激が  
私の肛門から駆け上がった。

「あ、ああ駄目ッ！これ……ッ外し……ッ」  
「おいおい、漏らしたくないって言うから栓をしてあげたんじゃないか。  
これだけピツチリと閉じれば絶対に漏れることはないぞ」  
「でも……んんッ」

確かに漏れることはないかもしれない。  
でもそれ以上に今までを超えるの便意が私を襲っている。

「あ……うう」

臀部を小刻みに震わせ必死に我慢してる私に男は

さらに大きな、酷く不安にさせるような笑みを浮かべて言った。

「それとな、これはただ震えるだけじゃないんだ。」

バイブ機能もついているんだよ。」

「え？」

バイブ機能？嘘でしょ？

ウンチを我慢して、さらにお尻の中を広げられて……

こんな敏感になりすぎてるアナルをさらに刺激なんてされたら……

私が声も出せずにいると

男は本当に楽しそうにリモコンを見せてきた。

「やめ……て……」

私が消え入りそうな声でそう呟くと同時に

男はバイブのスイッチを入れた。

「あ、ああああああッ……！！」

お尻から伝わる激しい振動が下から上へ登るかのよう  
私の口から大きな声が出た。

「や、駄目ッ！これッホントにダメエッ……！！」

振動自体はそこまで大きなものじゃないのかもしれない。

しかし浣腸されてウンチを出させようとする排便感に加え

直腸の壁にみっしりと密着して刺激をダイレクトに伝えるバルーン。

漏らさないように肛門に意識を集中し続けた私は

その感覚を直に味わうことになってしまった。

「びっとううッ！ お尻ッ 駄目ッ！ あっあッ」

あまりの刺激に私の体は小刻みに痙攣する。  
アナルから伝わる感覚に耐え切れず括約筋に力が入ると  
バルーンがさらに密着しより大きな波になって戻ってくる。

逆にバルーンを少しでも緩めようと力を抜くと  
今度は浣腸によってどろどろになった便が排泄感を与え  
さらにアナルは敏感になっていく。

我慢しようとしても出そうとしても  
それは大きな衝撃として私に還ってくる。

「あ、あああ…あひッ…あっあッ」

私はもうどうすることも出来ず顔をグシャグシャにしながら  
排便感なのかアナル刺激による快感なのか  
最早どちらなのか区別も付かない強烈な感覚に晒されるしかなかった。

「酷い顔だな。もうそろそろ許して欲しいか？」  
長らく無言のまま私の痴態を見守っていた男がそう切り出してきた。

「は…い…ごめん…ごめんなさい…もう、許してください…」

何に謝ってるのか、何を許してもらおうのかわからないが  
とにかく今の私の頭はこの状況から抜け出す事、ただそれだけだった。

「よしよし、それじゃ『このいやらしく感じる変態糞穴から臭くて汚い  
下痢便ウンコをひり出す所を見て下さい』って大声でお願いしろ」

なんて下品ではしたくない台詞なんだろう。  
しかし今の私にはそんな事を逡巡してる余裕なんてなかった。

「この…いやらしく感じる変態…糞穴から  
臭くて汚い…下痢便ウンコをひり出す所を見て下さい…」

「声が小さい」

「この、いやらしく感じる変態糞穴から…  
臭くて汚い下痢便ウンコを、ひり出す所を見て下さい！」

「もっと」

「このお！いやらしく感じる変態糞穴からあ！  
臭くて汚い下痢便ウンコをひり出す所を見て下さい！！！！」

腹の底から叫ぶ私にはもう羞恥心やプライドなんてものは  
なくただひたすらウンチしたいウンチしたいウンチしたい  
ウンチしたいウンチしたいという排便欲求だけだった。

「ハッハッハ。そんなに言うなら見てやるよ」

「それじゃ自分力でプラグごと糞を出すんだぞ」

「は…い。自分で出すからあ…ふんばるからあ  
早くウンチさせてえええ…ッ…！！！」

それを聞くと男は満足したように頷きバルーンの空気を抜いた。  
その刹那、私は括約筋にあらん限りの力を入れ肛門を開いた。

「んん…フウウウウウッ！…！！」

ブボンッ！！！！！！  
ブリエッブチュッブピピピピピピピピピピピピピピピピ  
ブリエッブチュッブピピピピピピピピピピピピピピピピ

私の肛門から激しく吹き出す糞便。  
時折ブピッと放屁を混じえ床一面を黄色に染めていく。

「ひ、あっあああああああッ！！！」

想像を絶する排泄の快感が私を襲う。

「あうッダメえッツイクツイちゃうううううううう！！！！！！」

肛門から脳天へ快感の矢が突き抜けるように  
私は排便しながら高く高く絶頂した。

あたりは私の糞便の臭気に包まれている。

私はそんな酷い臭いの中、絶頂感に浸り呆けていると  
「何腑抜けた顔をしているんだ。今日の調教はこれからだぞ」  
とお尻をパァンと叩かれようやく正気に戻った。

そう、これはあくまで準備にすぎない。

調教は始まったばかりなのだ。

「は…い」

私はよろめきながらベッドへと向かった。



# 奥付

発行日	2016/05/01
著者	もんぷち
印刷所	サンライズ
連絡先	lapislazuli17@gmail.com
Twitter	@monpetit17
HP	<a href="http://monpetit17.blog.fc2.com/">http://monpetit17.blog.fc2.com/</a>



R18  
For Adult Only